

# 令和5年度 神戸大学法学部編入学試験問題

令和4年11月3日実施

## 論文（法学概論）

所属するゼミで、「日本における近代法の誕生」について発表することになった。担当の教員は、とりわけ以下の点を取り扱うことを求めている。まだこのトピックについて勉強したことのないゼミ生にもわかるように説明せよ。

- (1)ボワソナードとは誰か。日本で何をしたか。
- (2)日本における「法典論争」とは何か。

# 令和5年度 神戸大学法学部編入学試験問題

令和4年11月3日実施

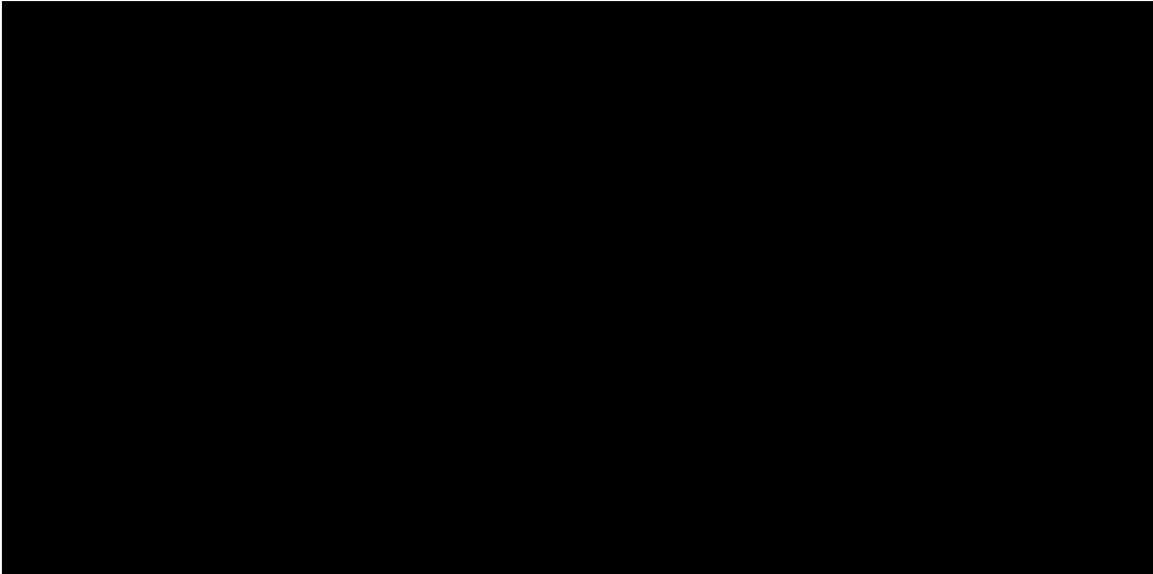
## 論文（一般教養）

下記の2つの文献を読んだうえで、問1、2、3の全てに答えなさい。

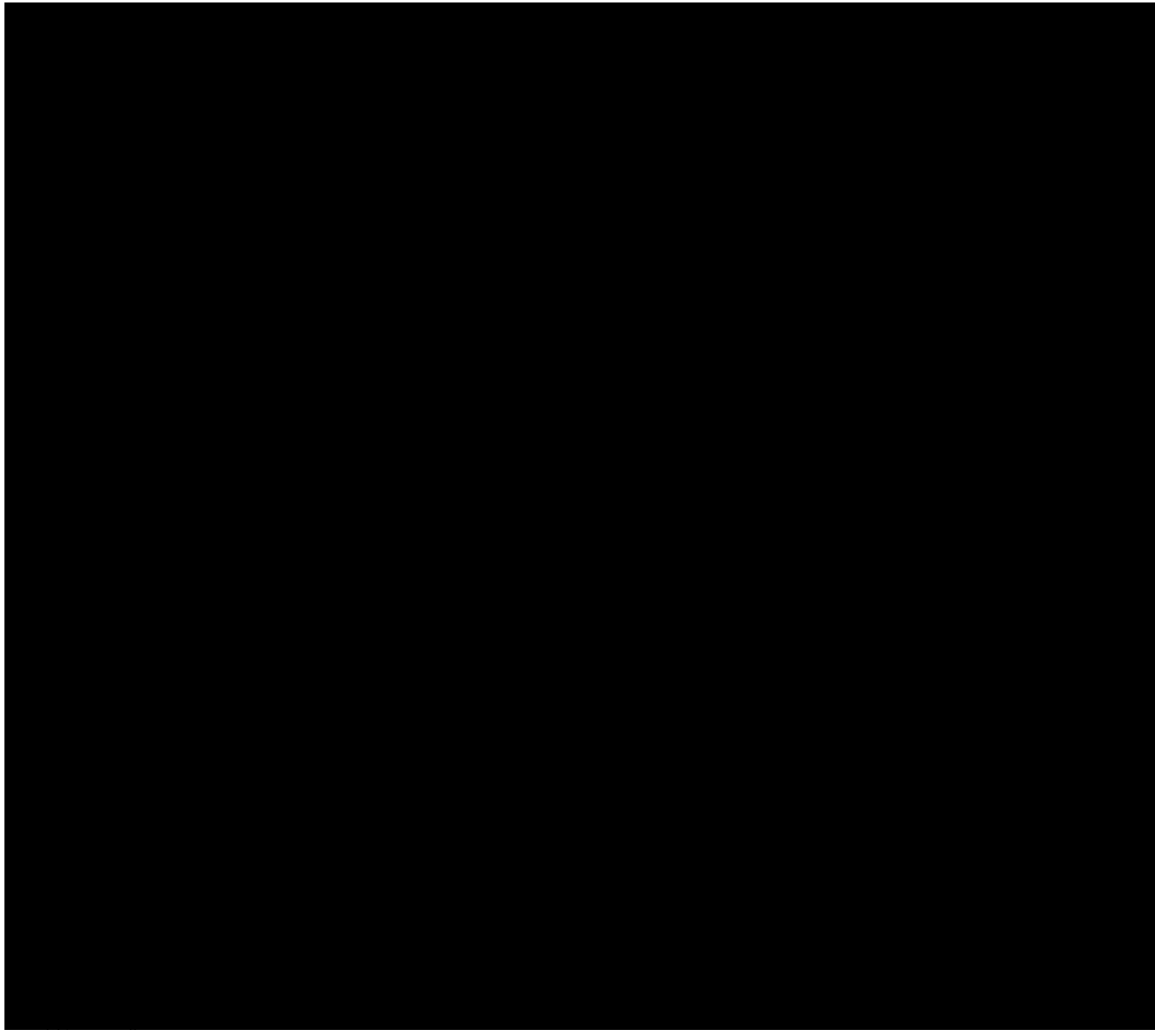
問1 下記の2つの文献の内容を、特に日本で世襲議員の比率が高い要因を中心にして要約しなさい。なお、2つの文献それぞれを要約するのではなく、2つの文献をあわせて要約を作成しなさい。また、字数は解答用紙の10から20行程度を目安とするが、字数よりも文章の要点がまとめられているかに採点の比重を置く。

問2 下記の文献に拠らず、世襲議員の良い面と悪い面を述べなさい。なお、世襲議員を肯定的・否定的に書いているかは評価とは関係なく、良い面と悪い面について具体的かつ根拠を添えて説明できているかに採点の比重を置く。

問3 日本の衆議院は、1947年から1993年までは中選挙区制、1996年からは小選挙区比例代表並立制の選挙制度を採用している。この選挙制度の変更は、理論的には、世襲議員の比率を上昇させる、低下させるいずれの効果をもつと予測できるだろうか？「政党中心の選挙」、「候補者個人中心の選挙」という2つの用語両方を用いて、説明しなさい。なお、記述にあたっては、下記文献を参考にしても、しなくてもいずれでもよい。



（出典：福元健太郎・中川馨、2013年、「得票の継承に対する世襲の効果：政党投票・候補者投票との比較」『選挙研究』29巻2号。原文の一部を省略している）



(出典：『朝日新聞』2021年10月04日夕刊1ページ。原文の一部を省略している)